

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

論述 計算 記述 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

小問数は昨年と同程度に多かったが、易しい問題が増えたために、全体の難易度はやや易化した。

出題の特徴や昨年との変更点

内容把握が難しい問題や簡潔に説明する論述力を必要とする問題が多かった。

その他トピックス

微分を用いる問題が出題された。描図問題がなかった。

第1問 問1(1)の太陽の温度や、第2問 問1(2)(b)の凝結高度の式は、問題中に値の指定が無く、受験生は迷ったかもしれない。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 計算	宇宙	地学	恒星・超新星 題意を的確に把握することが必要である。	やや難
第2問	論述 計算 記述 選択	大気・海洋	地学基礎 地学	大気の安定度・起潮力・黒潮 論述を簡潔に素早くまとめることが必要である。	やや易
第3問	論述 計算 記述 選択	地球	地学基礎 地学	ジオイド・火山 図を丁寧に読み取り、論述や計算を素早く行うことが必要である。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、題意を的確に把握する力や高度な思考力を必要とする問題が多く出題されている。差がつく問題はこのような難易度が高めの問題であるので、過去問などを通して十分に練習をしておこう。また、計算や論述を正確に素早くできるようにしておきたい。

難易度は年によって異なるので、難しい年の問題にも対処できるようにしておこう。古い過去問も可能な限り参照して、難易度が高めの問題に慣れておこう。

分量が多く、制限時間内にすべて終わらない場合は、難易度の低い問題から確実に解いていくことが重要になる。時間を区切って過去問や模試を解くことで、難易度の見極めや時間配分が適切にできるようにしておこう。